平成３１年度

島根大学大学院人文社会科学研究科修士課程

法経専攻地域経済コース

（第２次）入試問題

【 情報経済論 】

（私費外国人留学生入試）

注　意

1　問題紙 1ページ，解答用紙 2枚，下書き用紙 2枚である。

2　指示があってから確認し，解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。

3　解答は，解答用紙に清書すること。

4　問題紙，下書き用紙は，持ち帰ること。

法経専攻地域経済コース　　情報経済論　問題

以下、２つの問題に答えなさい。解答は解答用紙（問題１と問題２）にそれぞれ１枚ずつ記入すること。

問題１

収穫逓減（＝限界費用増加）を前提とした産業では生産規模を拡大した場合に規模の経済性が働かなくなるので、企業は生産量をコントロールすることによって価格を吊り上げようとする行動に出る。これに対してソフトウェア生産やネットワークサービス等を行う一部の IT 産業＝情報通信産業においては、情報処理能力の増大とこれと反比例したコストの減少によって収穫が逓増（限界費用が減少）するケースがある。

両者（収穫逓減の産業と収穫逓増の産業）の独占モデルの違いについて、図も用いて説明せよ。

問題２

個人等が保有する共有可能な資産等をインターネット上のマッチングプラットフォームを介して他の個人等も利用可能とするシェアリングエコノミー（共有経済）は、新たな需要を掘り起こすと同時に、既存のビジネスを代替し市場に劇的な変化をもたらす「破壊的イノベーション」と考えられる。

このシェアリングエコノミーが可能になった要因と、シェアリングエコノミーが既存の産業、労働・雇用に対して与える影響を具体的に説明せよ。